

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および2月17日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は、1990年に東京都が開設して以来、良質なリハビリテーション医療の提供に積極的に取り組んできた。2019年には回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得し、病院機能の拡充に努めながら現在に至っている。貴院は東京都にあって、その専門性を高めるためリハビリテーション科専門医を複数確保し、その他の専門職の配置も適切である。リハビリテーションに関する研究活動も活発に行われている。

今回は、高度・専門機能（回復期リハビリテーション）の受審であるが、貴院がこれまで積み上げられてきた地域リハビリテーション医療の中核的機関としての実績は高く評価される。一方で、回復期リハビリテーション病棟としてさらなる質の向上を期待する点もみられた。今回の受審が貴院の益々の発展に寄与できることを祈念したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

東京都におけるリハビリテーション医療の中核施設として位置づけ、その理念と基本方針が定められている。リハビリテーション科専門医のほか施設基準に見合った専門職の配置は適切である。また、認定看護師や療法士の育成も充実していることは評価したい。

医療安全確保に向けて多職種構成による管理体制が整備され、発生頻度の高い事象のマニュアル整備や職員への周知も適切である。多職種カンファレンスで個別の疾患リスクを共有し、安全なリハビリテーションの実施に努めている。緊急コールの周知や応援体制も適切に整備されている。院内感染対策マニュアルを整備し、感

染性廃棄物の取り扱いは適切である。手指消毒剤は院内の適所に設置・管理され、職員の携帯手指消毒剤の使用管理も適切に行われている。

回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータの活用として、年間データについてホームページへの掲載や事業年報が作成され、各方面に公表されていることは評価したい。教育・研修は、各職種のキャリアパスに応じて必要な教育研修計画が組まれている。研究活動については年間計画に基づき各職種で非常に積極的に取り組んでいることは評価できる。今後はFIM評価への多職種の積極的関与や教育を期待したい。

急性期病院との連携は円滑に行われている。自宅退院後も必要な患者には、自院の訪問リハ事業へ継続する仕組みが整えられている。また、リハ・ケア継続のため退院前カンファレンスでは地域担当者との情報共有と支援方法などが適時検討されている。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

病棟における診療は主治医制がとられている。合併症や併存症の管理についてはほかの診療科との対診機能も整備されている。担当医を中心に多職種による入院時、初期、中間カンファレンスが開催され患者の治療の進捗状況や退院に向けての調整が適切に実施されている。医師と多職種との共同研究や学会発表、企業との共同研究などが活発に行われており評価したい。

看護・介護職の役割・専門性については、日常業務は適切に実施されている。なお、介入計画については個別性を踏まえた具体的なものとなるよう期待したい。専門・認定看護師が多数育成されており、院内での看護実践および研究等において積極的に活動している。各療法士は適切に役割・専門性を発揮している。作業療法士によるモーニング・イブニングケアや理学療法士による病棟移動訓練、言語聴覚士によるコミュニケーション支援に加え、家屋状況などの情報収集、家事練習、就労支援など、退院後の生活を踏まえた介入や指導を行っている。

社会福祉士は、病棟では入退院支援看護師と共同で患者の受け入れや円滑な退院支援を行っている。地域連携業務でも積極的な活動を行っている。管理栄養士は、病棟において看護師と共同で患者の栄養評価、モニタリングを実践している。また、NST、褥瘡チームに参加するなどチーム医療の一端を担った活動がみられたことは評価できる。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院時の初期評価は、医師は外来で診察を行い、多職種は病棟において協働で評価を行い、初期計画が立案され共有する体制がとられている。なお、入院診療計画書は主たる合併症、併存症などについても記載されるとさらに良い。入院当日から個別リハビリテーションが提供されており、訓練以外の時間帯においても個々の患者に合わせた自主トレメニューが考案され実践されている。高次脳機能障害患者などに対しては多職種と協働で臨床心理士の対応がみられることは評価したい。患者の状態や訓練の進捗状況は電子カルテで共有されるほか、ADLカンファレンスや中

間カンファレンスなどで協議されケア表を更新していく仕組みが確立している。さらに、病室では担送護送の表示、車椅子は色分けして表示するなどして、患者の状態が共有する工夫がみられた。定期的にカンファレンスを開催し、退院に向けた協議が行われている。なお、カンファレンスでは患者の ADL 状況や課題などについて、ICF に基づいた議論や課題解決に向けた活発な協議となるよう検討を期待したい。自宅復帰に向けた退院前指導、退院後の継続支援などは適切に実践されている。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

| | | |
|-------|--|---|
| 1.1 | 良質なリハビリテーションを提供するための体制 | |
| 1.1.1 | 回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である | Ⅲ |
| 1.1.2 | 良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している | Ⅱ |
| 1.1.3 | リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している | Ⅱ |
| 1.2 | 安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み | |
| 1.2.1 | 患者の安全確保に向けた体制を整備している | Ⅱ |
| 1.2.2 | 患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している | Ⅱ |
| 1.2.3 | 安全で安心できる療養環境の整備に努めている | Ⅲ |
| 1.3 | 質改善に向けた取り組み | |
| 1.3.1 | 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している | Ⅱ |
| 1.3.2 | 回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している | Ⅱ |
| 1.3.3 | 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている | Ⅲ |
| 1.4 | 地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み | |
| 1.4.1 | 急性期病院と円滑に連携している | Ⅱ |
| 1.4.2 | 自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している | Ⅱ |
| 1.4.3 | 自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している | Ⅱ |

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

| | | |
|---------|---------------------------------|-----|
| 2.1 | 回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮 | |
| 2.1.1 | 医師は専門的な役割・機能を発揮している | II |
| 2.1.2 | 医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている | II |
| 2.1.3 | 医師はチーム医療の実践に適切に関与している | II |
| 2.1.4 | 医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる | II |
| 2.2 | 回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮 | |
| 2.2.1 | 看護・介護職は役割・専門性を発揮している | III |
| 2.2.2 | 看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている | II |
| 2.2.3 | 看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している | II |
| 2.2.4 | 看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる | II |
| 2.3 | 回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮 | |
| 2.3.1.P | 理学療法士は役割・専門性を発揮している | II |
| 2.3.1.0 | 作業療法士は役割・専門性を発揮している | II |
| 2.3.1.S | 言語聴覚士は役割・専門性を発揮している | II |
| 2.3.2 | 療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている | II |
| 2.3.3 | 療法士はチーム医療の実践に適切に関与している | II |
| 2.3.4 | 療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる | II |
| 2.4 | 回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮 | |
| 2.4.1 | 社会福祉士は役割・専門性を発揮している | II |
| 2.4.2 | 社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている | II |
| 2.4.3 | 社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している | II |

| | | |
|-------|--------------------------------|---|
| 2.4.4 | 社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる | Ⅱ |
| 2.5 | 回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮 | |
| 2.5.1 | 管理栄養士は役割・専門性を発揮している | Ⅱ |
| 2.5.2 | 管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている | Ⅱ |
| 2.5.3 | 管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している | Ⅱ |
| 2.5.4 | 管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる | Ⅱ |

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

| | | |
|-------|--------------------------------------|---|
| 3.1 | 初期評価とリハビリテーション計画の立案 | |
| 3.1.1 | 初期評価を適切に行っている | Ⅱ |
| 3.1.2 | リハビリテーション計画を適切に立案している | Ⅱ |
| 3.2 | 専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施 | |
| 3.2.1 | 各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している | Ⅱ |
| 3.2.2 | リハビリテーションの進捗状況を共有している | Ⅱ |
| 3.3 | 多職種による課題の共有と対応 | |
| 3.3.1 | 定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている | Ⅲ |
| 3.3.2 | 新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している | Ⅲ |
| 3.4 | 自宅復帰に向けた多職種による協働 | |
| 3.4.1 | 自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている | Ⅱ |
| 3.4.2 | 自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている | Ⅱ |